氷

統に培
展の作
産地ご
で表現
かし、
あるな
ら創作
作的
に多く

家に出
て、濱
る。
展示空間
含めて
る。
足を運
様性を
。斬新
用的で
品が多
られる。

バーナード・リーチ「鉄絵井戸図大皿」
（個人蔵）

特別展示の歴代作家一覧

作家名	部門
富本憲吉	陶
濱田庄司	陶
河井寛次郎	陶
バーナード・リーチ	陶
島岡達三	陶
濱田項一	陶
新垣栄三郎	陶
金城次郎	陶
小橋川永昌	陶
芹沢銈介	染
四本貴資	染
小島憲次郎	染
立花長子	染
柳悦孝	織
柳悦博	織
大城志津子	織
外村吉之介	織
黒田辰秋	木工・漆
船本倭帆	ガラス
棵方志功	版画
柳宗悦	―

鍛錬の技 生み出す美

新垣修さん（陶）

今回の沖縄展では、1918年に沖縄を初めて訪れ、新しい美を本土に伝えた、国内の工芸界の先達の作品が展示される。国展草創期に活躍した濱田庄司や河井寛次郎は、沖縄の人々と深い交流を重ね、壺屋のゆったりとした暮らしの中で、煩雑で手間のかかる仕事を職人たちがいとも簡単に大量にこなしながら、生み出す力強い自然体の美しさに感銘を受けた。

そうして制作された濱田や河井、棵方志功らの作品と、沖縄の金城次郎、小橋川永昌、新垣栄三郎の作品が一堂に会する。また現在の会員の作品を鑑賞すれば、現代にいかに匠の心が受け継がれ、独自の表現に生かしているかを鑑賞できる。またとない機会で、壺屋は大きい。

私の祖父栄徳、父栄三郎が濱田や河井、バーナード・リーチと親交があり、幼いころから親しみのある身近な存在だった。高校卒業後から陶芸を始めた私にとっても自然と国展が活動の場となった。

間近に作品を見ることで、作り手の思いを直接感じられる。一見おおらかに見える作品も実は圧倒的な仕事量から生まれる切れ味がある。気迫のこもったエネルギッシュな力強さを感じ取ってもらえるとうれしい。鍛錬の技から生まれる美も国展の見どころの一つだ。

棵方志功「赤不動」（個人蔵）

90回記念

国展工芸沖縄展

本日開幕

―黎明から現代 匠の系譜―

会期　9月13日㊋～10月2日㊐

会場　沖縄県立博物館・美術館

開場時間　午前9時～午後6時（入場は閉場の30分前まで）

休館日　9/20㊋、9/26㊊

入場料

一般当日 1,200円　団体 1,000円

小中高当日 500円　団体 400円

※団体は20名以上。障がい者手帳をお持ちの方と介助者1名は当日料金の半額。未就学児無料。

主催／国画会工芸部、沖縄タイムス社　特別協力／益子陶芸美術館　協賛／沖縄電力、ウィルコム沖縄、NPO法人ましこEまちネット

お問い合わせ　沖縄タイムス社文化事業局
電話 098-860-3588（平日午前10時～午後6時）